

## ジョン・ロールズの正義論と自己実現概念の関連性の研究

### －「公正としての正義」論と自己実現概念の再構築－

ルーテル学院大学大学院附属包括的臨床死生学研究所 清重 哲男 (1709)

キーワード：自己実現、正義、ロールズ

#### 1. 研究目的

ジョン・ロールズは、1960年以降、米国の公民権運動や女性解放運動等を背景に、欧米諸国で優勢な「最大多数の最大幸福」を目指した功利主義を反社会的として、対抗する「正義論」(1971)を提唱した。ロールズは、自由主義(リベラリズム)を代表する「公正としての正義」と命名した正義構想を提起した。本研究は、「正義論」に焦点を当て、筆者が開発した自己実現概念を再構築することを目的とした。

#### 2. 研究の視点および方法

<研究の視点>本稿は、ロールズの「公正としての正義」の構想と自己実現概念の関連性の研究を目的とする。正義論の目標は、「公正としての正義」の原理を探求し、政治哲学に基づき、公共的な正義の社会の基礎構造の定立にあった(Rawls 2004:145-2)。ロールズは、「ある人が幸福であるのは、当人が好ましい条件のもとで策定した合理的な人生計画を成功裡に遂行している最中であって、しかも自らの意図が完遂されることを無理なく確信しているとき」(Rawls 2010:720 11-13)であると自己実現に関連する思想を述べている。

<研究の方法>国会図書館所蔵のNDL-OPAC(書誌一般表示)の「書誌」「雑誌」を用い、「ジョン・ロールズ」「公正としての正義」「正義論」のキーワードで検索し、52件の先行研究を抽出した。その中から自己実現に重要と思われる先行研究を引用文献に使用した。各引用文献から自己実現に重要な論点をカードに抽出し、594枚のカードを作成した。これらの抽出した論点カードを基に、筆者が開発した自己実現尺度の概念を再構成した。

#### 3. 倫理的配慮

本研究は、個人情報に倫理的配慮をしています。本研究で引用・参考とした先行研究文献等は、著作権の保護に従い、研究目的以外に使用しないことを誓約します。

#### 4. 研究結果

ロック、ルソー、カントらの社会契約論を継承し、全ての市民が合意する正義の原理を定立した。「正義論」の核心は「公正としての正義」を定義する2原理である。功利主義を批判し「少数の人びとがより多くの便益を稼ぎ出したとしても、そのことで幸運でない人びとの境遇が改善されないなら、それは不正」だとする正義原理である(Rawls 2010:22 4-9)。

ロールズは、「幸福という状態は、・・・前もって設定された合理的な人生計画の遂行によって、達成される」(Rawls 2010:726-15)と述べている。これは自己実現の概念と合一し、この概念の導入により、自己実現は「前もって設定された合理的な人生計画の遂行によって、達成される」と表現できる。自己実現は幸福な状態の1形式であるとえる。

「生まれた家庭や生来の資質、人生途上の不利な状況等の個人の生活を改善するため、社会の多様な機会を活用し、人生計画の中から合理的に選択した合理的な複数の計画を順次段階的に遂行し、能力を高め、報酬を獲得し、最も不遇な人々の善に貢献」(Rawls 2004:133 8-15) していくプロセスが自己実現であるといえる (図2参照)。 結果的に、生産物の

分配を通じ、その活動が最も不利な状況にある人々の善により高度に応えていく、この取り組みを成長の各段階で展開していくプロセスが自己実現であるといえる (図3参照)

### 5. 考察

ジョン・ロールズの「正義論」は、国家としての社会的な正義論である。形而上学や哲学、倫理、心理学からは外れて、論じている (図1参照)。単純に平面化された初期条件下で、自己実現のモデル化された概念の考察が可能である。第2原理では、自分の「才能を、訓練、教育、・・・他の人々の善に貢献するために使うことによって、社会の基本構造は、彼に報酬 (例:医者として) を与えるのである」(Rawls 2004:130 2-5)。「正義」の制限条件に、筆者が開発した自己実現概念を重ね、本人の意思や哲学的思考や倫理などスピリチュアルな要素との融合により、新たな自己実現概念が再構築されることになる (図3参照)。

図1 ロールズの構成としての正義の概念

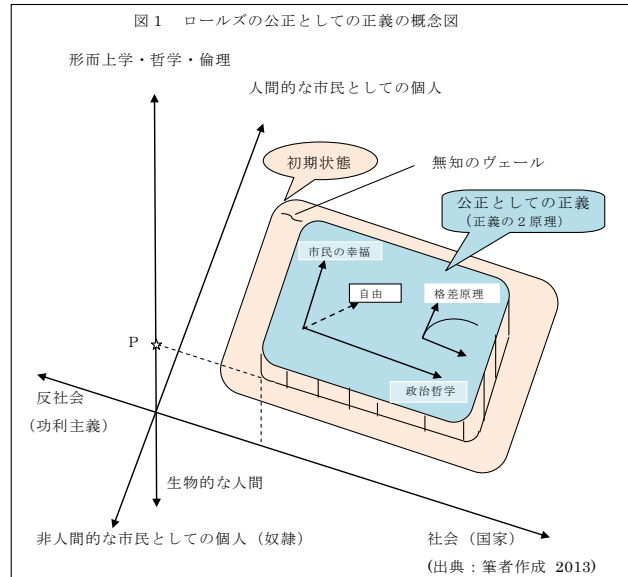
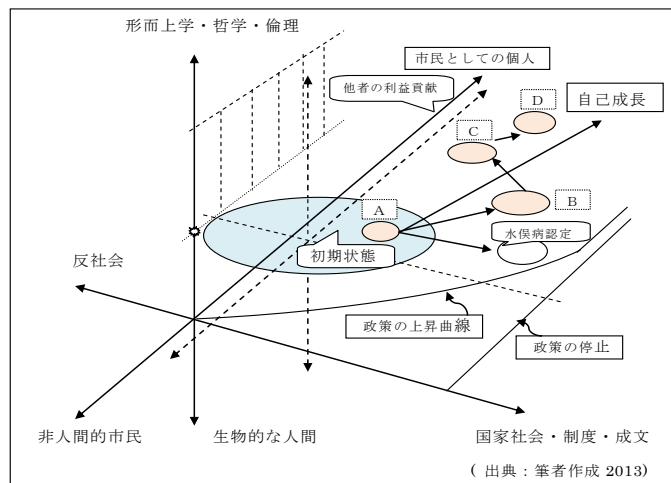


図2 ロールズの正義論と自己実現の可能性



### 【引用・参考文献】

- 1 John Rawls (1999) A Theory Of Justice Revised Edition ;Harvard University. (= 2010, 川本隆史・福岡聡・神島裕子訳『正義論 改定版』紀伊国屋書店)
- 2 John Rawls (1986) JUSTICE AS FAIRNESS :A RESTATEMENT ;Harvard University. (=2004, 田中成明・亀本洋・平井亮輔訳『公正としての正義 再説』岩波書店)
- 3 John Rawls (1986)The Law of Peoples (=2006, 中山竜一訳『万民の法』岩波書店)
- 4 笹澤豊(2010)「ロールズ正義議論再考」『倫理学』(筑波大学倫理学研究会) 26, 1-7.
- 5 小田健(1989)「自由・平等・合理性」『法学会雑誌』(東京都立大学)30(1), 233-275.
- 6 (2006)「ロールズ正義論と伝統的自然法論」『社会と倫理』(南山大学) 5(19), 59-72.